

図書館だより

第54号

令和6年2月 加須市立図書館発行

特集①：古いものの魅力

早いもので、令和も6年目になりました。次々と新しいものが登場する時代の流れの中、時には古いものの良さについて見直してみるのはいかがでしょうか。今回の図書館だよりでは、そんな古くて魅力のあるものについての本を紹介いたします。



『知識ゼロからの骨董・アンティーク入門』

岩崎 紘昌／著 幻冬舎

美的鑑賞対象としての古道具・古美術品である「骨董」と「アンティーク」。その長い年月を感じさせるフォルムには、人を惹きつける魅力があります。

本書はマイセンの人形や、九谷焼の花瓶など、数々の貴重な品と、その価値を見極める方法をやさしく解説しています。



『日本懐かしクルマ大全』 阿部 至晃／著 辰巳出版

1970年代から1980年代にかけて発表された様々な自動車。ファミリーカーや、憧れのスポーツカー・高級車、カウンタックを代表とした、子どもに大人気のスーパーカーなど、製造された時代背景や特徴を豊富な写真と共に紹介しています。



『古本屋ツアー・イン・ジャパン』

小山 力也／著 原書房

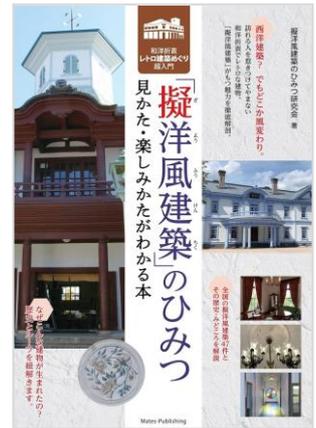
古本の良いところはなんでしょう？新刊より安く買えるのはもちろんのこと、昔懐かしい本があるのも魅力のひとつです。本書はその出会いの場である古本屋をめぐり巡った著者の体験記です。150の古本屋での出来事や特徴、取り扱っている本のジャンルまで触れており、古本探しの奥深さを感じさせてくれます。

『「擬洋風建築」のひみつ』

擬洋風建築のひみつ研究会／著 メイツ出版

街の中で見かける、どこか和風の雰囲気漂う古い西洋建築物。それは幕末から明治初期にかけて、当時の日本の大工が、伝統の技術と創意工夫を凝らして建てた和洋折衷の産物で「擬洋風建築物」と呼ばれています。

本書は、日本各地にある「擬洋風建築物」を掲載し、その特徴と歴史を紹介しています。観光名所になっている建物も多いので、足を運んでみてはいかがでしょうか。



『和家具をたのしむ』 山本 明弘／著 洋泉社



昔の家具職人の手によって作られた「ちゃぶ台」「^{たんす}筆筒」「^{こひきだし}小抽斗」などは、繰り返し修理され次の世代へと引き継がれてきました。長い年月使われた和家具には独特な深みがあり、日本人の感性に訴えかけるものがあります。

本書は創業70年余りの和家具店の店長が、古い家具の魅力と、和家具を取り入れた暮らし方を提案し、その実例を紹介しています。



『振袖 & 袴の大正ロマン着物帖』 大野 らふ／著 河出書房新社

明治から昭和初期に作られた着物は「アンティーク着物」と呼ばれております。鮮やかで独特な色遣いのある柄が再評価されており、卒業式や成人式に着てみたいという女性が増えているようです。

本書で掲載しているアンティーク着物は、柄を「古典系」「古典ポップ系」「大正ロマン系」にわけ、それぞれにあったコーディネートを紹介しています。気に入る着物がきっと見つかります。



『ロープウェイ探訪』 松本 晋一／著 グラフィック社

日本のロープウェイの歴史は古く、戦前にまで遡ります。国民がレジャーを楽しむようになった昭和30年代には、日本各地で見られるようになり、当時のお客さんに少しのスリルと雄大な景色を提供してきました。

そんな昭和の観光ブームを象徴する国内のロープウェイを145路線紹介しています。昭和から運行を続けているものが多く、見る人を懐かしい気持ちにさせてくれます。

☆☆☆こちらどうぞ☆☆☆

- 『図説英国アンティークの世界』 小野 まり／著 河出書房新社
『日本路面電車地図鑑』 地理情報開発／編 平凡社
『もう二度と見ることができない幻の名作レトロ建築』 伊藤 隆之／著・写真 地球丸
『クラシックカメラ博物館』 安藤 嘉信／著 日本カメラ社
『古くて素敵なクラシック・レコードたち』 村上 春樹／著 文藝春秋
『日本の路地』 パイインターナショナル／編著 パイインターナショナル
『足の下ステキな床』 今井 晶子・奥川 純一・西村 依莉／著 グラフィック社

特集②：紫式部と源氏物語

2024年大河ドラマ「光る君へ」の放送が始まり、紫式部と源氏物語についての考察が盛んになっています。日本の代表的な古典文学である源氏物語をより楽しむための関連図書をご案内します。



『私の源氏物語ノート』 荻原 規子／著 理論社

☆源氏物語を原文から全訳した著者による、作品について書き記したエッセイ。作品愛が感じられる細やかな考察は読み応えがあります。

『新・紫式部日記』 夏山 かほる／著 日本経済新聞出版社

☆紫式部が宮中での生活や考えたことを記した「紫式部日記」に、著者が大胆なフィクションを加えて書き起こした小説です。

『紫式部と平安の都』 倉本 一宏／著 吉川弘文館

☆紫式部の生涯と、源氏物語をどのように執筆したかをやさしく解説。ゆかりのある場所も掲載されています。

『すぐわかる源氏物語の絵画』 田口 榮一／監修 稲本 万里子／執筆 木村 朗子・瀧澤 彩／執筆 東京美術

☆全54巻ある源氏物語の名場面を、絵巻などに描かれた絵画とともにわかりやすく説明しています。

☆☆こちらどうぞ☆☆

- 『源氏物語を知っていますか』 阿刀田 高／著 新潮社
『光源氏と女君たち』 石村 きみ子／著 国書刊行会
『人がつなぐ源氏物語』 伊井 春樹／著 朝日新聞出版
『紫式部の欲望』 酒井 順子／著 集英社
『平安貴族嫉妬と寵愛の作法』 繁田 信一／監修 G.B.
『紫式部本人による現代語訳「紫式部日記」』 古川 日出男／著 新潮社
『源氏物語解剖図鑑』 佐藤 晃子／文 伊藤 ハムスター／イラスト エクスナレッジ



図書館カレンダー



2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5 ▲	6 △	7	8	9	10
11	12	13 ×	14	15 ※	16 ※	17 ※
18 ※	19 ▲	20 △※	21 ※	22	23	24
25	26 ▲	27 △	28	29 ×		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1 ■	2 ■
3 ■	4 ×	5 ■	6 ■	7	8	9
10	11 ▲	12 △	13	14	15	16
17	18 ▲	19 △	20	21	22	23
24	25 ▲	26 △	27	28	29	30
31						

4月

日	月	火	水	木	金	土
	1 ×	2 ×	3	4	5	6
7	8 ▲	9 △	10	11	12	13
14	15 ▲	16 △	17	18	19	20
21	22 ▲	23 △	24	25	26	27
28	29	30 ×				

×…全館休館日 △…加須図書館休館日 ▲…騎西・北川辺・おおとね図書館休館日

■…加須・北川辺図書館休館日 ※…騎西・おおとね図書館休館日

*開館時間 加須図書館…9:30~20:00 騎西・北川辺・おおとね図書館…9:30~18:00

特別整理を伴う休館について

図書館資料の点検のため、次の期間、図書館は休館となります
ご利用の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いします。

【騎西・おおとね館】 2月15日（木）～2月21日（水）

【加須・北川辺館】 2月29日（木）～3月 6日（水）

はじめてみよう「家読（うちどく）」

「家読（うちどく）」は、「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味し、「家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深めること」を目的とした読書運動です。

子どもを中心に家族が同じ本を読み、その本の感想を話し合います。

家族団らんのひとときにいかがですか？



本を選ぶ

本を読む

感想を話し合う

【お問い合わせ】

- 加須図書館
中央2-4-17 電話：0480-61-8200
- 騎西図書館
根古屋633-10 電話：0480-73-3178
- 北川辺図書館
麦倉1473-1 電話：0280-62-4400
- 童謡のふる里おおとね図書館
琴寄597-1 電話：0480-78-2211

☆図書館Webサイト



<https://www.library.kazo.saitama.jp/>